

今回の内容：会議情報

会議情報

最近の、消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第28回消費者安全調査委員会（平成27年1月23日）

- 機械式立体駐車場の事故
機械式立体駐車場の事故の調査報告書における分析の考え方の解説を取りまとめました。調査報告書では十分に論じていない分析の考え方の詳細について解説することが、機械式立体駐車場だけではなく、あらゆる機械の設計に実際に携わる方や、それを志している方にとって有益であると考え、分析の仕方を一般的な解説として取りまとめることとしました。この機械式立体駐車場の事故調査では、「どのような人が利用するのか、どのような環境で利用するのか」といったことを十分に考慮した上で、リスクを評価することが重要だということが明らかになりました。今回の解説書では、消費者安全調査委員会が実際に調査を行った事案の中から1つを取り上げて具体的に書いていますので、ぜひ事業者の方々や、大学の方々にも参考にしてくださいと思います。この調査報告書における分析の考え方の解説は、消費者安全調査委員会のホームページでご覧いただけます。<http://www.caa.go.jp/csic/action/index5.html>
- エスカレーター事故
事務局から報告書素案の全体構成について説明を受けました。
- 一般の方からいただいた「申出」事案
事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち4件については調査を行わないことになりました。残りの案件（25件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で調査委員会において判断していくこととなります。

部会の動き

- 工学等事故調査部会（1月中旬に開催）
 - ・エスカレーター事故：事故の状況を改めて整理するとともに、コンピューターシミュレーションは便利である一方、誤解を招きやすい部分もあるため、報告書にどのような形で載せるかを慎重に議論しました。報告書の取りまとめに向けて、引き続き部会で議論していきます。
 - ・ハンドル型電動車椅子事故：調査の視点の一つである電動車椅子の構造の問題に係る現場調査計画の説明を専門委員及び事務局から受け、議論をしました。
 - ・機械式立体駐車場事故：報告書における分析の考え方の解説について取りまとめの議論をしました。